

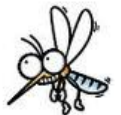
ワクチン接種で牛の異常産を 予防しましょう！

牛の異常産の一つにアルボウイルス感染症があります。蚊やヌカカなどの昆虫によって媒介され、様々な症状を引き起こします。

アルボウイルス感染症

アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病

原因：アカバネウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルス
伝播様式：春から秋にかけてヌカカなどによって媒介
症状：妊娠牛が感染すると胎子感染によって流産・死産が発生
または脳の欠損や体形異常などの子牛が生まれる



今年度、岐阜県で実施した検査ではこれらのウイルスの動きはありませんが、西日本では毎年ウイルスが動き、発生が確認される年もあります。

ピートンウイルス感染症

近年、西日本でピートンウイルスによる異常産が発生
このウイルスはもともと熱帯地方に分布し、1999年に初めて日本で分離

<対策>

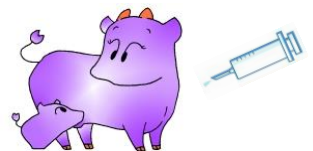
ワクチン接種による予防が最も効果的！

<対象>

繁殖用母牛、搾乳牛及びその候補牛

<接種時期>

ウイルス流行前（3～6月）



異常産の予防は媒介昆虫が活動し始める**前**のワクチン接種です。
平成30年4月より、飛騨地域ではピートンウイルスが入った
異常産4種混合不活化ワクチンによる予防を開始します。

裏面もご覧ください

飛騨家畜保健衛生所

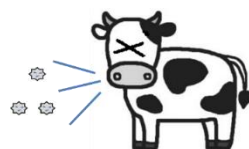
TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

ご不明な点は、市町村担当者、獣医師もしくは家畜保健衛生所までご相談ください。

牛を導入する時は、健康状態の確認、隔離、
また、引き続きヨーネ病検査を行いましょう！

他の農場や市場から牛を導入する時は、

1. 導入元農場の疾病発生状況の確認
2. 導入牛の健康状態の確認
3. 1週間以上の隔離
4. 県外導入牛（繁殖牛、搾乳牛及びその候補牛）は
ヨーネ病検査を実施



近年、飛騨地域での発生はありませんが、全国的にはヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病等の伝染病が各地で発生しています。特にヨーネ病は潜伏期が長いため、農場に長期的な被害をもたらします。

ヨーネ病発生状況（H28年） 27道府県 315戸624頭

飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

県外から牛を導入する場合は
家畜保健衛生所にご連絡ください。



飛騨家畜保健衛生所